

摂食嚥下障害リハビリテーション治療学特論

《担当者名》○永見慎輔 nagami@hoku-iryo-u.ac.jp 鈴木瑞恵 飯泉智子

【概要】

摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法、評価、治療法を学び、リハビリテーションを実施するための理論的基盤を確立する。また、超高齢社会における日本の低栄養の現状、摂食嚥下障害との関連、摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係についての理解を深める。

【学修目標】

一般目標：摂食嚥下リハビリテーションの評価・介入法について理解する。

行動目標：

1. 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法を説明できる。
2. 摂食嚥下障害リハビリテーションにおけるスクリーニング法を感度と特異度の点からその評価と限界を説明できる。
3. 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける治療法を説明できる。
4. 摂食嚥下障害と低栄養、フレイル、サルコペニアについて説明できる。
5. 摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係、介入法について説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------|------------------------|---|----------------|
| 1 | オリエンテーション | 講義の概要、学習目標、スケジュール、文献検索方法、学習方法について説明する。 | 永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子 |
| 2~4 | 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法 | 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法に関する文献を調べ報告する。 摂食嚥下障害リハビリテーションにおけるスクリーニング法を感度と特異度の点からその評価と限界を学ぶ。 | 永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子 |
| 5~7 | 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける治療法 | 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける治療法に関する文献を調べ報告する。 | 永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子 |
| 8~10 | 摂食嚥下障害と低栄養、フレイル、サルコペニア | 超高齢社会における日本の高齢者における低栄養の状況、摂食嚥下障害と低栄養、フレイル、サルコペニアとの関係、相互作用について学ぶ。 | 永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子 |
| 11~13 | 摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎 | 摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係、介入法について学ぶ。 | 永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子 |
| 14・15 | まとめ | 摂食嚥下障害の包括的リハビリテーションを実施するための理論的基盤を確認する。 | 永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

若林秀隆：PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養 栄養ケアがリハを変える 第2版 医歯薬出版、2015

才藤栄一、植田耕一郎 監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版、2016

日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 編集：脳卒中治療ガイドライン 協和企画、2015

【学修の準備】

1. 関連する文献、参考書を読み予習しておくこと（80分）。
2. 配布プリント、参考書で復習し理解を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の

(2026年度・大学院 リハビリテーション科学研究科)

高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

永見慎輔、鈴木瑞恵、飯泉智子(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

永見慎輔、鈴木瑞恵、飯泉智子：医療機関における臨床業務経験および大学における教育・研究経験をもとに講義を行う。